

男女平等推進
from
むさしの

まなこ

見えない貧困



”助けて”と言えない社会と貧困問題…………… P.2

「すべての子どもが夢や希望を持てる社会」の
実現を目指して子どもの貧困に取り組む…………… P.4

武蔵野市サポート情報紹介…………… P.6

企画
発行

武蔵野市 市民部 市民活動推進課 男女平等推進センター

見えない貧困

「困っている」と言えないまま孤立してしまう人々
がいます。けれども支え合う仕組みや温かなまな
ざしがあれば、その孤立は防げるかもしれません。

「助けて」と言えない社会と貧困問題

女性の活躍が進む一方で、単身世帯の女性、特に高齢者の貧困率は上昇し続けています。
貧困問題を研究する阿部彩さんに、日本の貧困の実態と課題についてお話しいただきました。

日本における貧困問題

貧困の問題は「お金がないこと」を中心に、さまざまな問題を引き起こしてしま
います。例えば、健康状態が悪化したり、
学力が低下したり、人間関係が希薄に
なったりします。私は、これらすべての
現象をひとまとめにして貧困問題だと捉
えています。

貧困には大きく分けて「絶対的貧困」
と「相対的貧困」があります。絶対的貧
困とは、国や地域に関係なく、人が生き
るために欠かせない最低限の衣食住を確
保できない状態のことです。世界銀行が
定める国際貧困ラインなど、主に開発途
上国の貧困問題を考えるときに使われる
指標です。一方、日本のような先進諸国
で使われるのは「相対的貧困」指標です。
文化や習慣を含む、その国や地域社会の

標準的な暮らしができない経済的状況を
指し、その社会の平均的な生活を基準に
相対的に考えられます。こうした相対的
貧困の多くは、見た目には分かりづらく、
周囲に気づかれにくいものです。

例えば、日本では結婚式やお葬式に
お金を包む習慣がありますね。知人や
親せきのお葬式に参列したいけれど、
お香典を工面できないので参列できな
い。本来であれば故人をしのぶにお金
なんかいらなはず。ですが、日本社会
ではお金がないとそれもできない。こ
うにお金がないことが、さまざまな問
題を生んでしまう。これが相対的貧困
の特徴です。

お金がないことで恥ずかしい思いをし
たり、周囲から差別や誹謗中傷^{ひぼう}を受け
たりすることがあります。そういった風潮
の中で、人前に出ることを諦め、孤立し

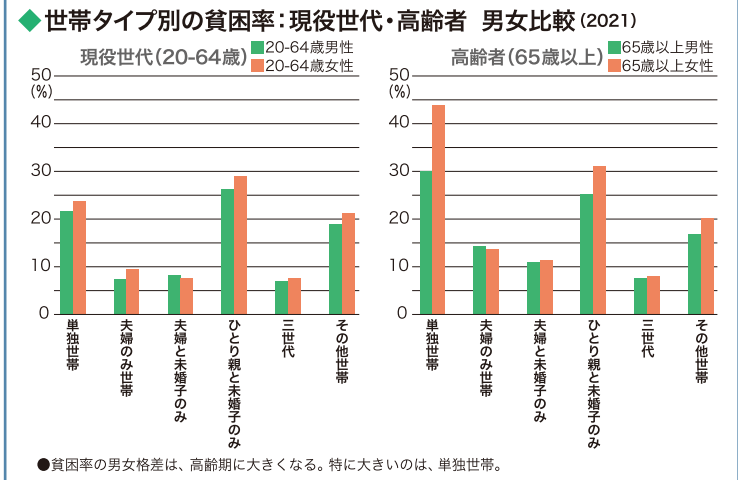
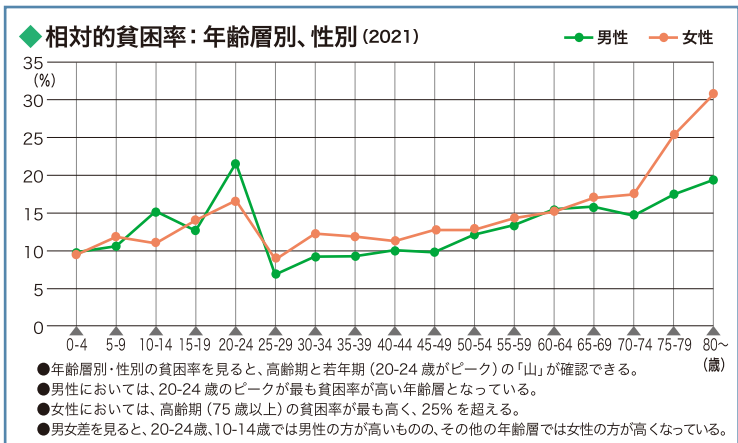
年齢にひとり暮らしになることは、ごく
身近な問題です。将来に向けて、どのよ
うに収入を得るのか、年金を増やせるか
が、安心して暮らしていくための力ギと
なります。

雇用形態と貧困のリスク

高齢者に限らず、結婚状況から見ると、
と、離別女性の貧困率は非常に高いで
す。これはひとり親世帯の母子家庭の
母だけではなく、子どもがいない離別
女性も同様です。結婚後に育児や介護
などでキャリアを中断した場合、再就
職の際に非正規職に就くことが多く、
収入が安定しにくいからです。また、

未婚女性の貧困率も低くはありません。
就職氷河期世代の中には、最初から非
正規として働き続けてきた人たちがい
ます。結婚や出産を経ないまま、今も
低賃金で働いている。そうした人たち
はワーキング・プア^{*}の状態にあり、貧
困から抜け出しにくい状況です。

また、男女限らず、近年はブラック企
業の問題等で、うつ病などの精神疾患を
発症し、正規職で働いていても就労困難
な状況に陥ることがあります。今の日本
社会は、そういったケースの人が社会復
帰し、次のキャリアを築くのが難しい側
面があります。経済的に困窮することは
特別なことではないのです。



「阿部彩（2024）「相対的貧困率の動向（2022調査 update）」JSPS 22H05098, <https://www.hinkonstat.net/>」より抜粋し作成

てしまう人もいます。私は、こうした社
会的排除へつながっていくことも、相対
的貧困の問題だと考えています。

貧困率の推移と高齢女性の貧困

実は、貧困率は2012年ごろをピー
クにやや下がっているんです。貧困率は
世帯所得によって測られますが、人手不
足で女性の就労率が上がり、世帯収入が
上昇したことが背景にあります。つまり、
社会的支援が整ったというより、最低賃
金の上昇、雇用状況の改善などが影響し
ています。その一方で経済回復の恩恵を
受けていない層が高齢者です。年金収入
で生活する高齢者も多く、その貧困率は
2012年あたりから男女ともに徐々に
上がっています。

一番の要因は、ひとり暮らしの高齢者
が増えていること。女性は寿命が長いの

貧困支援と課題

高齢者については、年金制度に加えて、
地域包括支援センターや居場所事業、配
食サービスなど、高齢者向けのサービス
が数多く存在します。ただ、それらは介
護の枠組みで提供されており、必ずしも
貧困に焦点を当てたものではありません。
また、高齢者の就労支援は、主に雇
用延長とシルバー人材センターが挙げら
れますが、選択の幅が少なく、経験やス
キルを活かせる就労支援は不十分で、早
急な対応が求められています。

一方、現役世代に対しては、生活保護
を受ける権利以外に、貧困に対する公的
な支援はほとんどありません。一般的に
は、生活困窮者自立支援法の枠組みとして
就労支援、職業訓練などを行っています。

貧困の方に対し、「自己責任、もっと
働け。」というような見方が社会の中に
広がっている実情があります。就労支援
以外の貧困対策は難しく、労働法の枠組
みの中で、最低賃金の引き上げによる
ワーキング・プア対策や、法的保護のた
めの規制が行われています。雇用保険制
度も改正されてきています。非正規の方
は雇用保険に入っていない方も多いので
すが、未加入でも給付を受けながら職業
訓練ができる制度など、まだまだ十分で
はありませんが、徐々に改善されてきて
います。

それでも、たとえ働いていても生活が
苦しい、生活保護が受けられる基準の少



あべ あや
阿部彩さん

東京都立大学人文社会学部人間社会学科教授兼
子ども・若者貧困研究センター長
海外経済協力基金、国立社会保障・人口問題研
究所を経て、2015年より東京都立大学人文
社会学部人間社会学科教授。同年に子ども・若
者貧困研究センターを立ち上げる。専門は貧困、
社会的排除、公的扶助。著書に、『子どもの貧困』
『子どもの貧困Ⅱ』（岩波書店）、『子どもの貧困
と食格差』（共著、大月書店）など。『生活保護
の経済分析』（共著、東京大学出版会）にて第51
回日経・経済図書文化賞を受賞

で、圧倒的に女性が多いですね。かつて
は、男性が働き、女性は家事や育児を担
う専業主婦が一般的でした。そのため年
金受給額が低くなりやすく、他の世代や
男性と比べて貧困率が突出して高くなっ
ています。都市部の場合は、持ち家であ
れば家賃が大きな負担になってきま
す。孤立対策を含めた生活サポート、医
療、介護対策など、今後、どうやって支
えていくかは重要な課題です。

近頃は、子どもと同居する方が少なく
なっています。子どものいない女性も増
えています。すべての女性にとって、高

し上ぐらいの収入がある層に対してでも、
支援が必要なのではないでしょうか。

「助けて」と言える社会をつくるために

私たち自身の意識も変えていかなけれ
ばなりません。困っている人に対して、
厳しい目ではなく、優しい目を向けてほ
しいと思うのです。

貧困であることが恥ずかしい、生活
保護を受けることが恥だと思う風潮が
あります。そのため、本当に支援が必
要な状況なのに、周囲に相談せず隠し
て我慢してしまう人たちがいます。冒
頭のお葬式の例のように、お香典を出
す余裕がなくて参列を諦めてしまう人も
います。お香典なんかなくても、来てく
れるだけでありがとうと思える世の中
だったらいいますよね。

体面を保たないといけない、支援を受
けるのは恥ずかしいなど思わずにいら
れる、苦しくなったら助けてと言える。
そんな社会は、誰にとっても生きやすい
はずです。

次世代に貧困が連鎖しないようにする
ためにも、私たち一人ひとりが、今、しっ
かりとこの問題を考えていく必要がある
と思います。

「取材 石川英彦／取材・文 久富明美」

^{*}国際貧困ライン 世界銀行によって定められた貧困を定義するた
めのボーダーライン。1日1人当たり3ドル（約450円）。
2025年6月改定

^{*}ワーキング・プア 就労しているが、貧困から抜け出せない
人のこと

「すべての子どもが夢や希望を持てる社会」の実現を目指して子どもの貧困に取り組む

今の日本の子どもにも貧困はあるのか？
子どもの教育支援を行っている「キッズドア」の渡辺由美子さんにお話を伺いました。

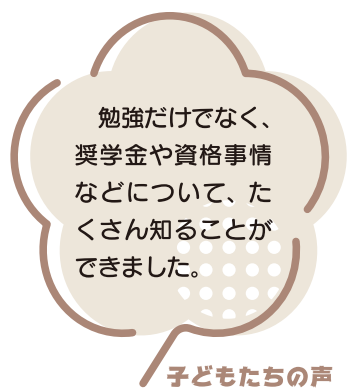
——子どもの貧困の現状と、なぜ貧困に陥るのか教えてください。

一見、豊かに見える日本でも貧困は存在し、子どもの相対的貧困率は^{*1}11.5%で、およそ9人に1人が貧困と言われています。大きな特徴はひとり親家庭の貧困率が非常に高く、最新のデータで^{*2}44.5%。ひとり親家庭の約2分の1という割合です。

日本では、ひとり親家庭の多くは母子家庭です。やはり女性の貧困、母子家庭の貧困というのがものすごく大きな問題です。

母子家庭の就労率は高く、ほとんどのお母さんは仕事をしているのですが、その収入が低い理由に男女の賃金ギャップが大きいということがあります。

お父さんがひとり親になった場合、正社員として仕事を維持できる可能性は高いと思います。しかし、女性は出産を機に一度離職する方が多く、子育て中に母



子どもたちの声

勉強だけでなく、奨学金や資格事情などについて、たくさん知ることができました。

子家庭になった場合、育児をしながら就ける正社員の仕事は早々見つかりません。やむなく非正規の仕事などを始めても収入が足りず、掛け持ちで仕事をする方も少なくありません。そこに子育てもありますので、正社員になるための勉強時間やキャリアを積む機会も得られず、低賃金の仕事をやり続けるということになってしまいう方が多くいます。

加えて、養育費の受け取り率が非常に低いということもありますね。離婚するときに取り決めをしたとしても支払われない場合が多く、それに対して罰則もない。海外では、行政が立替払いをしたり、

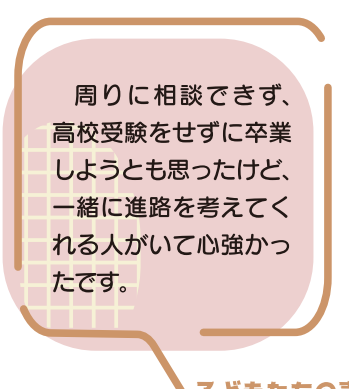
行っています。他にも、子どもたちへの食事や文具などの物資の支援や体験活動、困窮家庭支援のために奨学金や行政の給付金等の情報を発信したり、より生活を安定させるための就労支援などのファミリーサポートも行っています。^{*3}

これは、お金がないから塾に行けないという単純な話ではありません。家に自分の勉強机がない、節約のためにエアコンを点けないようにしているなど学習環境が整っていない場合も多くあります。また、幼い兄弟の面倒をみたり、生活のためにアルバイトをしている子などは勉強時間を確保するのも容易ではありません。親も長時間労働で忙しく、子どもの勉強や将来のことを一緒に考える余裕がないなど、いくつもの背景が重なっています。

さらに、困窮家庭は社会から孤立しがちなため、自分のお手本となる大人のロールモデルが周りにおらず、自分の未来を描くことができにくく、学習する目標や意欲を持つのが難しいのです。

そのような子どもたちに不足している部分を私たちはサポートしています。

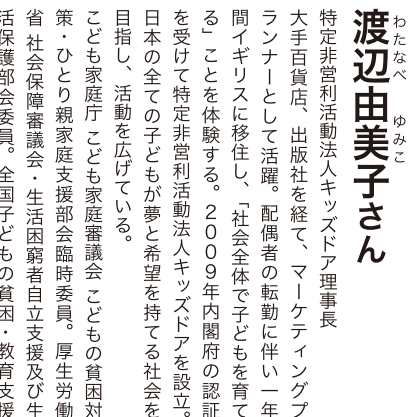
十分な教育機会が提供されることで、将来の仕事の選択肢が増えれば、収入の高い職に就く可能性も高まります。学習ボランティアの大学生から学校や進路についての考え方を聞いたり、体験活動で会社見学をすることで自分の将来に夢や希望を持てる子もいるでしょう。



子どもたちの声

周りに相談できず、高校受験をせずに卒業しようとも思ったけど、一緒に進路を考えてくれる人がいて心強かったです。

相手方の給与から天引きをするなど、子どもたちのために養育費が確保される仕組みがある国もありますが、日本では弁護士などにお金を払って取り立て業務をお願いするしかないのです。

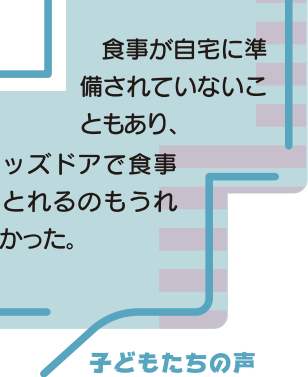


わたなべ ゆみこ
渡辺由美子さん

特定非営利活動法人キッズドア理事長
大手百貨店、出版社を経て、マーケティングプランナーとして活躍。配偶者の転勤に伴い年間イギリスに移住し、「社会全体で子どもを育てる」ことを体験する。2009年内閣府の認証を受けて特定非営利活動法人キッズドアを設立。日本の全ての子どもが夢と希望を持てる社会を目指し、活動を広げている。

このように、子どもの貧困は親の自己責任ではなく、社会環境が大きな要因となっていると思います。

また、日本は同質性を求める社会傾向がありますので、皆が持っている物を子どもに持たせないと、「あの家は貧困だよね」といじめに繋がることもあるわけです。そうすると、食費を減らしてでもスマホなどを買ひ与えますので、見た目からは困窮している子どもが社会から見えづらいうのも特徴の一つです。



子どもたちの声

食事が自宅に準備されていないこともあり、キッズドアで食事をとれるのもうれしかった。

私たちは教育機会の格差に目を向けて、小学生から高校生に無料で学習支援を

たくさんの学習会に参加し、大学進学に対し現実的に向き合うことができました。インターン参加などたくさんの人と関わり、自分が見えていた世界が広がりました。

子どもたちの声

学習だけではなく“機会”を通して子どもたちが成長できるようにと願っています。

現在、特に高校生世代の支援にとても力を入れています。中学生までは義務教育ということもあり、たとえ成績が悪くても卒業はできますよね。勉強が遅れると行政の協力で学習フォローをしてくれるところもあります。しかし高校生になると、その学校に見合った学力を維持しないと転校や退学を余儀なくされる場合があります。そのような子どもたちのために、勉強はもちろん、今抱えている問題を一緒に考えるなどして、高校を卒業できるように支援しています。

このように学習支援をメインにしていますが、良い学校に行くことが全てというわけではありません。自分の人生をどういうふうに生きたいのかを考えて、そこに向かって努力をする“未来を切り開く力”を付けることが重要だと思っています。私たちは、そのために様々な活動を続けています。

——最後に『まなこ』の読者にメッセージをお願いします。

見えない貧困というように、一見わからないけれども、実は私たちの想像以上に困っているお子さんたちがいます。誤解をして欲しくないのですが、その子たちは決してかわいそうな子どもではありません。たまたま今、経済的に苦しい状況に置かれているだけで、他の子どもたちと同じようにみんな素晴らしい才能を秘めていて、将来の可能性に満ちています。

私たちの活動を通して“まずはよく知ること”をお勧めします。冷静に現状を理解し、子どもたちに対して皆さんが優しい目を持って欲しいと思います。

心ない人に「物価高騰でみんな大変なのに手当もらえていいよね」などと言われるシングルマザーもいるそうです。精一杯頑張っている親御さんには、自分は何の役にも立てず迷惑をかける存在では、と自己肯定感を下げてしまつ方もいます。

誰にでも同じ支援をするのが「平等」かもしれませんが、厳しい状況の方たちに手厚い支援をすることを良しとする社会、困ったときに困ったと言えてお互いに助け合える、そんな社会全体で子どもを育てることで、誰もが豊かな教育を受でき、夢と希望を持てる世の中になっ

「取材 沼田仁子／取材・文 羽柴史美」

^{*1・2} 厚生労働省2023（令和5）年国民生活基礎調査の概況。
^{*3} （出典）国立大学法人お茶の水女子大学「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）」の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」。

ヒューマンあい だより

●男女平等推進団体の登録・更新について

男女平等社会の実現に向けて活動している市内団体を「男女平等推進団体」として登録しています。団体登録をすると、会議室の優先利用や補助金などの活動支援を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。

講座報告

家族とつくる、副業時代の暮らしと働き方

日時>令和7年10月4日(土)14:00～16:00

場所>武蔵野市民会館集会室

講師>浅川絢子さん(一般社団法人ビジネスシード代表理事)

「新しい働き方と家庭」をテーマに、講義と参加者同士が対話するワークショップを行いました。家庭内で実践できる工夫や考え方を学び、働き方と暮らしのバランスのとれた、自分らしい働き方について考えました。



源氏物語を読む「自由を選び取った朧月夜の恋」

日時>令和7年10月11日(土)10:00～12:00

場所>武蔵野市民会館集会室

講師>竹内寿恵子さん(元高校国語科教諭)

第41回市民会館文化祭の特別講演として実施しました。

相談窓口のご案内 相談無料 秘密厳守

◆女性総合相談

女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校でのことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】面接・電話による相談

【相談時間】1回50分／予約制

第1土曜日	①13:00～ ②14:00～ ③15:00～
第2金曜日	①18:00～ ②19:00～
第3月曜日	①14:00～ ②15:00～
第4火曜日	①9:00～ ②10:00～ ③11:00～

◆女性法律相談

離婚・扶養(養育)・相続などの法的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

【相談方法】面接による相談

【相談時間】1回30分／予約制

第1土曜日	①9:30～ ②10:10～ ③10:50～ ④11:30～
-------	--------------------------------

申込み方法▶「ヒューマンあい」窓口または、電話にて予約を受け付けます。

予約電話番号▶0422-37-3410(木曜・年末年始を除く午前9時～午後10時)

◆むさしのにじいろ相談(性自認・性的指向に関する相談)

セクシュアリティ全般や性自認・性的指向に関する悩み・相談に専門相談員が応じます。ご本人のみならず、ご家族や支援者の方などからの相談にも応じます。一人で悩まず、まずご相談ください。

第2水曜日	17:30～20:30
-------	-------------

▶電話相談:0422-38-5187 ※予約不要

▶面談をご希望の方はこちらへご予約ください。0422-37-3410

TOPICS

講座の開催情報など、センターからのお知らせをホームページで情報発信しています。

アクセスしてみてください。



ホームページ



『まなこ』バックナンバー

令和7年度サポーター自己紹介

青木佳子さん◎『まなこ』を通して、誰もが生きやすい世の中になることを期待します。様々な問題意識を持ったメンバーと話すのも楽しみです。

大坂由香理さん◎年齢を言い訳にせず、何歳になっても学び、行動し、人との出会いや地域での関わりの中で新しいことに挑戦しながら年を重ねたい。

川島京子さん◎男女平等について小さなことですが実践していることがあります。夫のことを主人と呼ばないようにしています。主人の対義語は奴隷なので。

斎藤桃子さん◎葛藤を抱えつつの専業主婦、中学生と小学生と子犬のワンオペ母さんです。今の私の場所からできることを精一杯やりたいです。

末廣宏美さん◎2018年から渡仏、妊娠出産を経て日本へ帰国。現地で地球の歩き方ウェブの特派員として活動。沢山のデモやストライキに直面、市民が未来のために闘う姿を目の当たりにする。帰国後、武蔵野市で育児中。

立松佑規さん◎2歳児の父親です。男女平等を学びより良い夫婦関係を築いていきたいと思ったのがきっかけです。楽しんで学んでいきたいです！

村森暁さん◎日本では性別が違うだけで、使える言葉からして抑圧されています。誰もが人権を約束された社会を築くため、文章の力で挑みます。



男女平等推進センターの蔵書から貸し出しています！

『親といるとなぜか苦しい』『親という呪い』から自由になる方法

リンジー・C・ギブソン

岡田尊司 監訳 岩田佳代子 訳
(東洋経済新報社)

衝撃的なタイトルから手に取らずにはいられない。本書では精神的に未熟な親のもとで育った子どもに見られる症状を紹介。自分の親を客観的に見ること、親を理解し、自分という存在を認め、精神的に自由になれる。親との関係に悩んでいるならば、是非一度読んでみてほしい一冊。

[文 沼田仁子]



〇〇〇〇特集〇〇〇〇〇〇〇〇 見えない貧困

武蔵野市サポート情報紹介

子どもやお年寄りの居場所づくりをはじめ、様々なサポートがあります。

武蔵野市相談ごと一覧



テンミリオンハウス

主な利用対象者

自力通所可能・身の回りのことが自分でできる高齢者の方

主なサポート内容

武蔵野市では、介護保険制度を使わずに、地域で見守りや社会とのつながりが必要な方の生活を総合的に支援する「テンミリオンハウス事業」を実施しています。高齢者向けのミニ「デイサービス」や手作りのおいしい昼食(日替わり)を提供しています。

利用の申込み

ご利用いただける方の条件や、必要な料金、実施するプログラムの内容などは、各施設の運営団体が独自に決めていますので、各施設へお問い合わせください。

施設名	場所	連絡先
かわし 川路さんち	西久保 1-34-2	55-6239
つきみじ 月見路	吉祥寺北町 1-11-7	20-8398
いそ そ〜らの家	吉祥寺南町 5-6-16	71-3336
きんもくせい	境 4-10-4	50-2612
はなどけい 花時計	境南町 2-25-3	32-8323
くるみの木	中町 3-25-17	38-7552
ふらっと・きたまち	吉祥寺北町 5-7-9	56-8537

問合せ先

高齢者支援課 管理係

電話番号:0422-60-1940

テンミリオンハウスホームページ



学習支援事業

主な利用対象者

経済的な課題を抱える世帯に属し、学習支援が必要な小学3～6年生、中学1～3年生(諸条件がありますので、お問い合わせください)

主なサポート内容

子どもの社会的自立を促し、貧困の連鎖を防止することを目的に、小・中学生の基礎学力の向上を目指した補習教室による支援を行います。

教室について

市内の吉祥寺・西久保・桜堤の3か所にて、月々金曜日に開催。科目は、国語・数学(算数)・英語で、小学生は各80分、中学生は各90分の授業になります。(シルバー人材センターに委託)



問合せ先

生活福祉課 生活相談係

電話番号:0422-60-1254

学習支援事業ホームページ



子ども・「コミュニティ」食堂

主な利用対象者

子ども・子育て世帯等

主なサポート内容

地域住民や飲食店等が、無料又は低額で食事を提供し、食を通じて子どもや保護者、そして地域の人たちがつながりを持ち、交流する場です。

子ども食堂を始めてみませんか

「子ども食堂を始めたい」「場所を貸したい」「寄付したい」など、子ども・コミュニティ食堂、学習支援の場を立ち上げたい方や協力いただける方からの相談も市民社協で受け付けています。お気軽にご相談ください。

むさしの子ども応援ブック

武蔵野市内で開催されている子ども・コミュニティ食堂や学習支援、子どもの居場所などの情報は市民社協ホームページや子ども応援ブックに掲載されています。



問合せ先

社会福祉法人武蔵野市民社会福祉協議会(市民社協)

電話番号:0422-23-0701

市民社協ホームページ 子ども支援情報



武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」ご利用案内

〒180-0022 武蔵野市境2-3-7 市民会館1階

電話:0422-37-3410 FAX:0422-38-6239

開館時間:午前9時～午後10時(木曜・年末年始 休館)

Eメール:danjo@city.musashino.lg.jp

『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点＝「まなこ」で見えていこう！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

123号「家族介護」を読んで

令和7年度 第1回『まなこ』サポーター会議が7月9日(水)に武蔵野市立男女平等推進センターにて開催され、活発な意見交換がされました。

◎表紙のタイトル「家族介護」は、見る人によって、それが当たり前と前提としてそうしなければいけないのかなという理解に繋がる可能性があるのではないかと懸念します。

一方で、タイトルのインパクトが強いので身近なこととして手に取っていただけるのかもしれない。中を読むと家族介護で頑張りすぎなくて良いという内容でした。

◎ケアをしている介護者の視点が大事だと思いました。誰にとっても必要なテーマなのでみんなに読んで欲しい内容です。早めに相談することが大切だとわかりました。

◎親の介護と子育てが重なってきている時期を表したグラフは、もっと目立つようにしたらよかったです。

◎介護経験者のネガティブなことも併記して欲しかったです。

◎テーマが介護でありながら、男性・子育て世代・実際の声と全世界に関わる内容でした。

◎男性の介護が孤立しやすいことが周知されることで、当事者も「自分が悩んでいる」ということに気づけると思っていました。

◎男女平等というと、不利益を被っている女性にスポットが当たる印象が多かったが、介護する「男性」の辛さにスポットが当てられ具体的な取り組みや展望が語られていたのがよかったです。

◎男性の辛さを男性研究者が語るのではなく、女性研究者が語るのよかったです。

◎市民の声で、「愛する妻のために」という感動する内容でした。特集が課題を浮き彫りにした中で、実際に介護に参加する市民の方の心の持ち方が素敵だなと思いました。自分の心の持ちように生かせる内容で、多面的な学びになりました。

〔文 沼田仁子〕



『まなこ』サポーターの200字コラム

「見えない貧困」について

先進国日本の高い貧困率を考える

大坂由香理

貧困は予期せぬきつかけで、誰もがなり得る。貧困は状態で、境界線がなく、具体的に捉えづらいが、無関係な別世界のことでない。海外のスラム街だけの話ではなく、事実、餓死者もいる現代日本の社会全体の問題だ。様々な課題の根底にある貧困に取り組むことは、少子化の解決にもつながる。表面的な数字だけを見ず、一人一人の現実から目を背けず、生存権で保障された人間らしい生活を皆が送れるよう、勇気をもって行動したい。

親ガチャ・カルチャーショック 村森暁

「送り少なくて」とバイト仲間が言った時、私は「うちも」と相槌を打った。彼女は「三万は足りない」と言うので、私は「塾も掛け持ちしてる？」と訊いた。彼女は「違うよ、実家からの仕送りが足りないの」と言った。実家からの仕送り？ 彼女にはお金をくれる家族がいるらしい。仕送りとは自分が実家に入れるお金を指すと思い込んでいた私は驚いた。他の家庭の多くがそうとは知らなかった。生まれが違えば同じ言葉の意味すら逆になる。

見えない貧困について

末廣宏美

見えない貧困の原因は様々ですが、私は社会的孤立を防ぐことで減らすことができると考えます。私はコロナ禍に外国で出産し、サポートのない育児に強い孤独を感じていました。その時、周囲や行政の方が私の状況に気づき、手を差し伸べてくださったことで救われました。行政にサポートがあっても、困ったと相談する相手がわからない、自分が求める助けにたどり着けないことがあります。普段から安心してつながるコミュニティ作りが私たちにできる解決策だと考えています。

Editors' Notes * 編集後記

見えない貧困は表面化しにくく、支援が届きにくい。私達も地域全体で理解し、共感と行動を広げていくことが大切だと感じた。(石川英彦)

女性が自ら生計を立てられる社会の仕組みや法制度が整わない限り、女性の貧困や母子世帯のリスクは高いままだ。貧困問題は特別なことでなく、誰もが直面する可能性があることを知って欲しい。(沼田仁子)

子どもにとって、皆と同じでいることがとても大事なのだと知った。「家はうち、他所はよそ、他人をうらやむことは良くない事」と教えられた世代なので、社会の変化を感じました。(羽柴史美)

日本は協調性や利他精神を重んじる社会と言われていたが、貧困に関しては自己責任と突き放すという矛盾。日本人は親切で優しいという通説は本当にそうだろうか。(久富明美)

* STAFF *

取材・編集 石川英彦 沼田仁子 羽柴史美 久富明美
武蔵野市立男女平等推進センター担当職員

編集協力 栗原 毅

表紙デザイン ふじわりりわ

レイアウト 上田ジュンコ

印刷 PICOプリンティングイン株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関など市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センター「ヒューマンあい」まで。

*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターのご協力を頂いております

市ホームページでもバックナンバー
をご覧いただけます。

武蔵野市 まなこ

検索